

# 香取遺産



▲お披露目された日の餅まき



▲土台の一部と根太に古材を使用



▲木目が美しい国産のケヤキ

## vol.207 令和生まれの山車

◀明かりをともした夜の山車

佐原の大祭で賑やかに曳き廻される山車。その躯体は、土台から梁まで6本または8本の柱が立ち、上下の貫で連結する軸組み構造になっています。新上川岸区は、躯体部分の痛みが著しいことから、その保存修理方法について佐原山車行事伝承保存会と協議を重ねてきました。保存会では、学識者から構成される評議委員会に諮問し、度重なる現地調査と審議を経て「躯体については新調すべき」との答申を受けました。これに係る修理費用については、文化庁と保存会が協議した結果、令和3年度補正予算事業文化芸術振興費補助金の交付を受けることができました。

復原新調に際しては、元の躯体と同じ大きさ、同じ工法を原則としつつ、構造的に弱い所は補強をするなど、一部に改良を加えています。

躯体の原材料は、木目の美しい厳選された国産のケヤキを使用しています。特に、正面は新潟県長岡市山古志産の四方柱の柱となっています。また、下高欄には虎の毛並みのような木目の虎空、擬宝珠柱や土台には木目が同心円の形になっている玉空が使われています。

先代の躯体は大正4年に再建されたもので、その一部に江戸時代の製作と伝わる先代の部材を使用していました。このことから、今回の躯体の根太と土台の一部に先代の部材を使用することとしました。令和に生まれた新しい山車。そこには山車の歴史そのものが刻まれています。これからの百年、新上川岸区の皆さんの思いとともに、山車行事の歴史を歩んでいくことでしょう。